

旧御涼亭は台湾閣としても知られており、当時は旧日本帝国の一部であった台湾在住の邦人から寄贈された建物です。1926年に天皇となられた裕仁皇太子（1901～1989）の1924年の御成婚を記念して献上されたもので、建築は1927年に開始されました。

台湾閣の御休息所は日本庭園を一望できる広く開放的な空間で、当時の新聞では「水の上に建つ御休息所…夏の御散策の際に涼をとる建物」と言及されています。

この建物は中国の本格的な建築様式が用いられている、日本では数少ない建造物の一つです。屋根の色や形、窓の様式、室内装飾、その他多くの特徴が高く評価されています。建築様式は「ピンナン式」と呼ばれる、中国南部の福建省のものであり、台湾では19世紀初頭から人気となりました。

反り返った軒、化粧漆喰のツバメの尾のような構造、屋根瓦の色、柱を支える梁の形、車寄せの装飾石、そして室内装飾、以上のすべてが「ピンナン式」における典型的な特色です。建設資材の多くは台湾から持ち込まれました。柱には台湾杉が使われており、天井板には台湾檜が使われています。

この建物は1940年代に一般公開されました。